



公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町センタービル(マリオン)13F  
☎(03) 5218-4771 <http://www.jcancer.jp/>

主な  
内容

- 2面 開幕せまる  
リレー・フォー・ライフ
- 4、5面 がん罹患モニタリング集計
- 8面 フットサルリボン活動

## 2013年度RFLマイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞 河野美保さんと原野謙一さんに決定

日本対がん協会が米テキサス大学MDアンダーソンがんセンターの協力を得て実施している「RFLマイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞」の2013年度受賞者の発表と授賞式が4月18日、有楽町朝日スクエアで開かれた。

同賞は日本の若手医師が同センターで1年間研修を受けるプログラムで、対がん協会が各地の実行委員会と共に開催しているリレー・フォー・ライフに寄せられた寄付金をもとに、地域のがん医療の充実を図るために2010年度に設けられた。一般社団法人オンコロジー教育推進プロジェクトが支援している。

4回目となる今回は日本医科大学武蔵小杉病院の原野謙一医師(35)=腫瘍内科=と、広島市民病院の河野美保医師(36)=腫瘍内科=



米テキサス大MDアンダーソンがんセンターでの研修が決まった河野美保さん(右から2番目)と原野謙一さん(中央)。上野直人同センター教授(右端)と、垣添・日本対がん協会会長(左から2番目)と秋山・同理事長(左端)

が受賞した。

対がん協会の秋山耿太郎理事長が二人の受賞を発表、上野直人MDアンダーソンがんセンター教授が奨励賞を授与し、患者中心のがん医療のリーダーになって欲しいと激励した。

同センターのオリバー・ボーグラー教授もビデオメッセージを寄せた。

河野医師は広島市民病院で地域医療に携わる中で乳腺に興味を持ち、エビデン

スを吟味する重要性を痛感したと述べ、米国での研修後はチーム医療の充実に貢献したいと真摯な想いを語った。

原野医師は臨床研修で有名な沖縄県立中央病院で医師のキャリアをスタートさせたこと、武蔵小杉病院では腫瘍内科の立ち上げに携わった経験などから、日本のがん臨床研究や開発の発展に寄与して、患者さんがより良い治療を受けられる

ように尽くしたいと力強く語った。

リレー・フォー・ライフを代表してサバイバーで医師の坂下千端子さんが、医師だけでなくがん患者や皆の力を結集してがん対策を進めたい、がん医療はここ数年で激変するはず、日本も乗り遅れずかつリードできるように頑張っしてほしいと激励し、対がん協会の垣添忠生会長は自らの留学

経験を引き合いに、貴重な人生経験をして欲しいとエールを送った。

その後、河野医師、原野医師に上野教授も加わってディスカッションに移り、日本の若い医師を取り巻く環境の問題点や、日米の医療現場の違い、リサーチマインドをどうつけるかなどをテーマに会場からも質問が相次ぎ、活発な意見交換が行われた。

**がん相談ホットライン** 祝日を除く毎日  
03-3562-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎03-3562-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

**医師による面接・電話相談(要予約)**  
予約専用 03-3562-8015

日本対がん協会は、専門医による面接相談および電話相談(ともに無料)を受け付けています。いずれも予約制で、予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までに☎03-3562-8015へ。相談の時間は電話が1人20分、面接は1人30分(診療ではありません)。詳しくはホームページ(<http://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

### リレー・フォー・ライフ ジャパン

5月10～11日の鹿児島ウォーターフロントパークを皮切りに、本年度のRFLがいよいよ幕を開ける。それに先駆け、各ブロックでは開催地の実行委員長らが集まり、キックオフミーティングが開催された。3月の近畿、九州、北海道・東北に続き、4月は中部、中国・四国、関東と

## 各ブロックでキックオフ会議を開催

続いた。中部の様を追ってみよう。

中部エリアは4月5日、名古屋に集結。岐阜、岡崎、尾張一宮、松本、長野、静岡、長泉に加え、今年の初開催を考えている豊川をいれると合計27人が参加した。日本対がん協会職員よりRFLのルールの再確認が行われた。次に各



中部キックオフ会議参加者より、RFL鹿児島へエールを送る

実行委員が抱える問題点の解決策をディスカッションしたり、成功例を披露したりした。参加者は熱心にメモをとり、質問は時間切れになるほど白熱した会議になった。

それを仕切るのは中部ブロックスタッフの大菅善章さん。「実行委員会にRFLの理念をきちんと理解してもらい、正しいRFLを増やしてゆきたいんです」。この熱い思いは参加者全員に届いたことだろう。

参加者のひとり、尾張一宮の新実行委員長、井上光樹さんは「同エリア、他会場のメンバーと開催するミーティングは有意義で、協力しながらより良いRFLにしていきたいと思いました」と語る。ヨコの繋がりをつくることもキックオフミーティングの大事な目的。情報やモノを共有することによりそれぞれのRFLがより大きく成長してゆくことだろう。

### リレー・フォー・ライフの使命とは?

RFLは、米国での発祥以来"Save Lives"を使命としています。直訳すると「命を救う」ことですが、単に医療行為によって救命をするという意味ではありません。医療に従事していなくても、RFLに参加し寄付金を募ることで医療の進歩に貢献し、間接的に人の命を救うことができます。がんの予防啓発活動をおこなったり、生きる希望を失った人の支えになったりすることも命を救うことです。

"Save Lives"のもう一つの意味は、いわば「魂を救う」ことなのです。私たちは、この使命を明確にし、参加者はもちろんすべての関係者に伝えてゆかねばなりません。

## がん征圧の夢をのせ 「RFLプロジェクト未来 研究助成金」の公募開始

公益財団法人日本対がん協会は4月20日付で、がん研究に助成する「リレー・フォー・ライフ プロジェクト未来研究助成金」の公募を始めました。

将来のがん医療に役立つと期待されるがんの基礎研究、臨床研究、患者・家族のケアに関する研究を支援するもので、1件あたり最大300万円を助成します。

この助成制度は日本対がん協会が、がん患者・家族の方々を支援するイベント「リレー・フォー・ライフ」を通じて寄せられた寄付ですべてをまかない、運営し

ております。詳しくはリレー・フォー・ライフのホー

ムページ内のプロジェクト未来のページ(<http://>

[relayforlife.jp/donate/project1](http://relayforlife.jp/donate/project1))をご覧ください。

### リレー・フォー・ライフ プロジェクト未来研究助成金

対象:

〔分野Ⅰ〕基礎研究・臨床研究（がんの発症メカニズムの解明に向けた基礎研究、新薬開発にかかわる基礎・臨床研究等）

〔分野Ⅱ〕患者・家族のケアに関する研究

助成金：1件300万円を限度とする（総額1500万円以内）。研究が複数年にわたる場合は、年度ごとに申請（最長5年）

応募方法：希望者はリレー・フォー・ライフのホームページ内のプロジェクト未来のページ (<http://relayforlife.jp/donate/project1>) からダウンロードした申請書に必要事項を記入し、〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町センタービル13階 日本対がん協会 プロジェクト未来研究助成係にお送りください。

締切：7月20日（消印有効）

問い合わせ：日本対がん協会「プロジェクト未来研究助成」係・田淵  
電話03-5218-4771



# 被災地にかつらやケア帽子を送付

## One Worldプロジェクト 支援物資大規模募集を終了

東北のがん患者に医療用かつらやケア帽子などを届けているOne Worldプロジェクトのメンバーが4月11日、日本対がん協会で最終回となる第九次募集で集まった支援物資の仕分

け・発送作業を行った。

同プロジェクトはがん体験者や医療者など有志6人が立ち上げ、日本対がん協会が支援してきた。

「ちょうど3年前の今日スタートしたんです」と、自身も乳がん体験者で発起人の一人である代表の寺田真由美さんは感慨深そうに話す。

震災直後の混乱の中、体験者ならではの患者に寄り

添った支援活動は大きな話題を呼び、全国から寄せられた救援物資は、実に第八次まででかつら約2300点、帽子約9000点に上る。

「抗がん剤治療を終れば髪はまた生えて来るんです。でも再発を恐れてかつらを手元に取って置く人も多し。かつらを手放すことで一歩前に進めたという声も聞いています」

がんで家族を亡くした遺族が贈ってくれるケースも多く、使う間もなく亡くなった奥さんのための、新品同様のかつらを贈ってくれた人もいます。



手作りのタオル帽子

今回もかつら55点、タオル帽子・ケア帽子220点他沢山の品が全国から集まった。

One Worldプロジェクトは震災後3年を期に大規模募集は終了するが、今後も要望に応じて東北への支援物資送付を継続するほか、寄せられた寄付金を使って帽子作りなどの活動を続けていく。



梱包作業を終えて

## 第10回「ピンクリボンデザイン大賞」作品募集スタート

ピンクリボンフェスティバルの一環として開催しているピンクリボンデザイン大賞の作品募集を、母の日の5月11日にスタートします。乳がんの早期発見の大切さを伝え、検診受診を呼びかけるポスターのデザインを公募するこのコンテストは、応募者に制作過程で乳がんについて学んでも

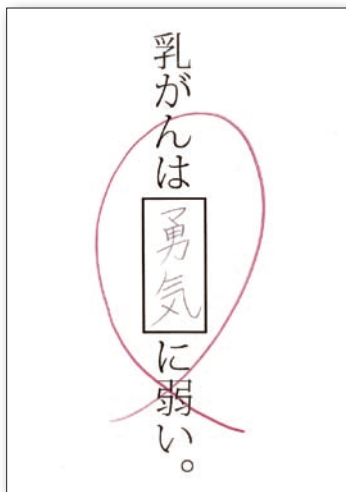
らい、さらにその発信力を生かして啓発を行おうと創設されました。若手クリエイターらにとっての登竜門としても注目され、昨年は622点の応募がありました。

今年も、2つの課題コピーのいずれかに見合うポスターデザインを募集します。グランプリ受賞者に賞金50万円を贈るほか、作品はポスター化して東京・神戸・仙台で交通広告として掲示します。自治体にもデザインを無償提供し、受診率向上を図るためのツールとして活用していただきます。今年度は10回目の開催を記念して、デザイン大賞のアワードロゴも募集します。

「第10回ピンクリボンデザイン大賞」の概要は、右の通りです。



審査員と公式メッセージャーのモモ妹



昨年度グランプリ作品

- 課題コピー：①か②どちらかのコピーを使用。
- ①：乳がん検診で一番多く見つかるものは、安心です。
- ②：乳ガンは、くやしいガンです。
- 募集期間：5月11日(日)～6月30日(月)(当日消印有効)
- 応募方法：①指定の応募用紙 ②作品
- ①②を重ねて1作品ごとにホチキスなどで留めてご応募ください。
- 応募先：〒107-8880 赤坂郵便局留「ピンクリボンデザイン大賞」作品応募係
- 協賛：キンビバレッジ(株)
- 主催：ピンクリボンフェスティバル運営委員会
- 後援：厚生労働省、東京都、日本医師会
- ※応募規定などの詳細については、ピンクリボンフェスティバル公式サイト (<http://www.pinkribbonfestival.jp/>) をご覧ください。

# がん罹患者は年に80万人超に

## がん罹患モニタリング集計

がんと診断される人は年に80万人を超えたと推計されることが、国立がん研究センターがん対策情報センターが発行した「全国がん罹患モニタリング集計2010年罹患数・率報告」で分かった。2009年より約3万人、3.8%増えている。男性の増加率

が3.5%なのに対し、女性は4.3%。増えた人数は男性の方が2000人ほど多いが、増加率は女性の方が高かった。女性では乳がんの罹患患者数が1割以上増えており、これが女性のがん全体を押し上げている。

各地のがん登録に基づいて「がんの実態把握とがん情報の発信に関する研究班」が分析した。日本のがんの基本データの一つになっている。がん対策情報センターがこのほど2009年と2010年それぞれの報告を発行した。

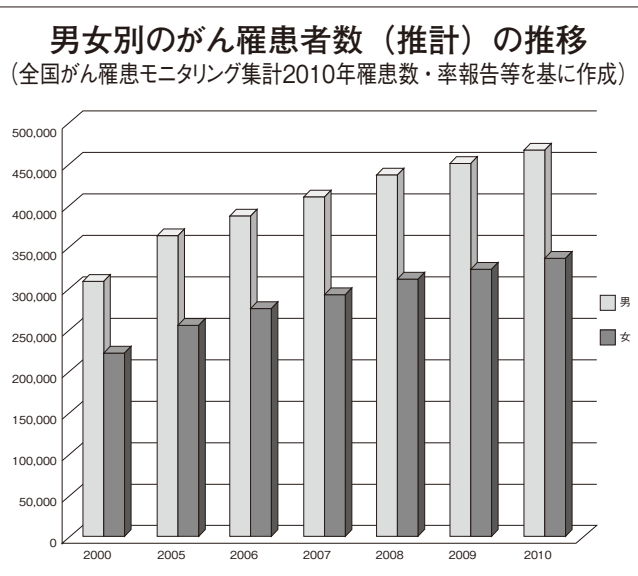
いずれの年も基になったのは日本の人口の5割前後をカバーする地域のデータ。推計罹患数が増えた背景には、がん登録が整備されて届け出が増えていることもあると考えられ、両報告とも「真のがん罹患リスクの変化」を示しているものではない、としている。

10年の報告によると、同年にがん(上皮内がんと、

頭蓋内の良性腫瘍を含まない)と診断された人は男女合わせて80万5236人で、09年より2万9635人増えた。男性は46万8048人で、女性が33万7188人。

男女別に主ながんの罹患数をみると、男性は胃がんが最も多くて8万6728人。肺がん7万3727人、大腸(直腸と結腸)がん6万8055人、前立腺がん6万4934人、肝臓がん(肝内胆管がんを含む)が3万1244人などと続いている。

09年より増加が目立ったのは前立腺がんで、5307人、8.9%増えていた。胃がんは2165人、肺がんは2005人、大腸がんは1196人の増加だった。



女性では、乳がんが最も多くて6万8071人。大腸がん5万924人、胃がん3万9002人、肺がん3万3514人などとなっている。乳がんは09年より6839

人(11.2%)増加した。主ながんの中では増加率が最も高かった。次いで肺がんが1521人、大腸がんも1441人の増加と、近年の傾向に変わりはない。

## 男性は40代から胃がん、大腸がんのリスクが高まり

男性の主ながんの年齢階級別の罹患率(推計)をみると、40代に入って大腸

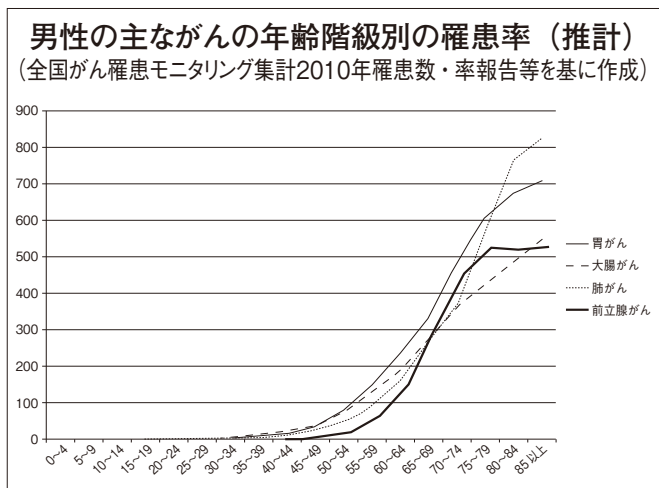
がんや胃がんが増え始め、50代後半に急増していた。しかし、胃がんは80代後

半になると増えているとはいえ増加ぶりはやや鈍る。大腸がんは70代前半で少し増加ぶりが鈍るものの、80代に入っても一本調子に増えている。

肺がんが、急増するのは胃がんと大腸がんよりも5~10歳ほど高齢になってから。70代前半で大腸がんよりも多くなり、80代前半で胃がんを上回って最も罹患率が高くなる。肺がんよりもさらに高齢になってから急増するのが前立腺がんだ。40代までの発症

は極めて低いものの、50代後半から急増している。

この4つのがんで男性の罹患患者数(推計)の約63%を占める。つまりがんになる男性のほぼ3人に2人はこの4つのがんのいずれかを発症している計算だ。うち胃がん、肺がん、大腸がんについては厚生労働省が指針を設けてがん検診を勧めている。罹患患者が急増する50代に入る前からの検診の受診習慣が重要なことが、今回の集計からも浮かび上がっている。





# 目立つ女性の増加／乳がんが押し上げ

## 20代後半から子宮頸がん、30代前半から乳がんのリスクが増加

女性のがんでは、やはり 30代前半から増え始め、  
乳がんが目立っている。 40代後半でピークを迎え

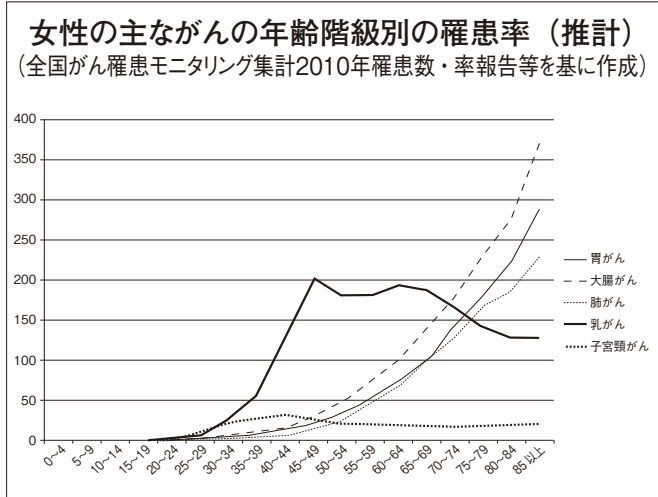
るが、60代前半でも再び 増えて2つの年代に「山」  
ができている形だ。子宮頸 がんは乳がんより早く20  
代で増え始め、40代前半 にもっとも罹患率が高くな  
っていた。

女性が患うがんはこの5 つで60%を占めている。  
いずれも厚労省が指針を作 って検診を勧めているがん だ。

とくに子宮頸がん検診 は、対象とする年齢が「20 歳から」とがん検診の中で 最も若いうちから受けるこ とが勧奨されている。

胃がん、大腸がん、肺が んはいずれも似た曲線を描 いているが、大腸がんの発 症が目立つ年代が比較的若 くて40代前半から。胃が んと肺がんは5～10歳、 年齢が高くなってから増え る傾向にあった。

この年代から「がん検 診」を日常的に受ける人が 増えると、がんで亡くなる 人が減ることが確実視され ている。



## 上皮内がんを含めると乳がん発症は年に7万6041人 2010年の推計／09年より8400人増

乳がんなどはこれまで 上皮内がんを含めて統計 がとられてきた。全国が ん罹患モニタリング集計 の基になる各地のデー タにも上皮内がんが含ま れている。

上皮内がんは、がんが 上皮細胞と組織の境にな る膜を突き破っていない 状態。この段階で治療 すれば「とり切れる」可 能性が高く、治療が期 待できるとされ、早期発 見が勧められてきた。啓 発キャンペーンなどで 日本人の乳がんの罹患 者を示す場合、上皮内 がんを含めることが一 般的だった。

その上皮内がんを含め た乳がんの発症は2010 年に7万6041人と推計 された（上皮内がんを除 くと6万8071人）。2009 年よりも8422人、12.5%

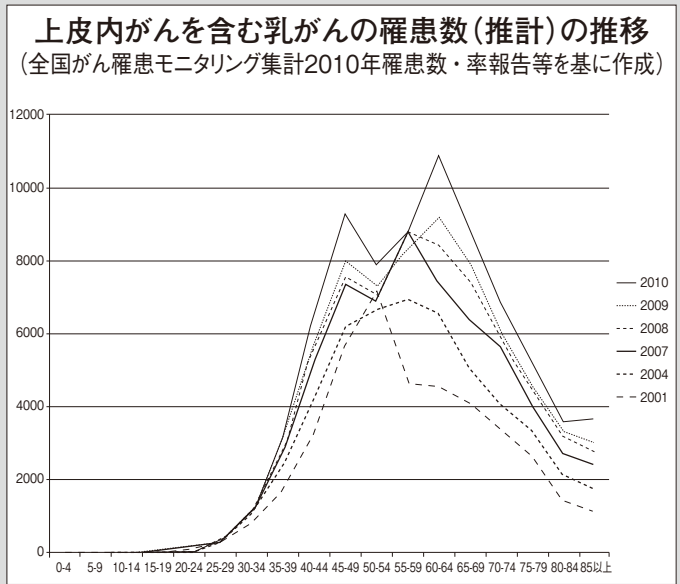
の増加となっている。 この集計で発症が4万人 を超えたのが01年（4万675人）で、5万人 を超えたのは04年（5万549人）、6万人を上回 ったのは07年（6万986 人）だった。ほぼ3年で 1万人ずつ増えた計算だ が、07年から10年は約 1万5千人と、増加 ぶりが著しくなった。この傾向が続くと11年の推計は8万人を超えることも予想される。

全国がんモニタリ ング集計は、各地の がん登録を基に推計 されており、がん登 録の整備が進んで 「がんの届け出数」 が増えると、この集 計の数も増加する。 報告自体も、本当の

発症リスクを示してい るものではない、として いる。

それにしても、乳がん 罹患者の増え方は目立っ ている。30代以降、全 体的に増えている中で、 顕著なのが40代後半と 60代前半だ。人数でみ ると、60代前半が1万

870人と最も多い（40代 後半は9254人）。これま で日本人の乳がんは40 代から50代が多いとい う、欧米と異なる傾向を 示していたが、近年は 60代から70代にかけ ても増えており、欧米と 似た様子も示すよになっ たといえそうだ。



# 2012年度 がん検診の実施状況から ◆肺がん

支部	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検 受診者数 (C)	精密検査結果 (件)			未受診	未把握	各指標 (率)			
				がん (D)	がん疑い	がん以外 の疾患			要精検率 B/A×100	精検受診率 C/B×100	がん発見率 D/A×100	陽性反応 の 中 度 D/B×100
北海道	94,169	2,223	2,006	83	0	1,228	217	0	2.36	90.24	0.09	3.73
青森	86,623	1,851	1,637	51	57	878	0	214	2.14	88.44	0.06	2.76
岩手	14,664	478	429	8	1	247	49	0	3.26	89.75	0.05	1.67
宮城	17,618	23	19	10	6	3	4	0	0.13	82.61	0.06	43.48
秋田	67,273	2,221	1,922	41	32	1,799	299	50	3.30	86.54	0.06	1.85
山形	77,679	3,364	2,924	54	41	1,493	440	0	4.33	86.92	0.07	1.61
福島	217,644	3,242	2,652	61	50	1,085	54	557	1.49	81.80	0.03	1.88
茨城	210,482	6,034	5,125	123	18	2,536	909	0	2.87	84.94	0.06	2.04
栃木	63,674	872	687	11	42	374	185	15	1.37	78.78	0.02	1.26
群馬	121,427	1,280	1,117	87	27	728	-	471	1.05	87.27	0.07	6.80
埼玉	45,884	1,035	819	8	21	394	216	396	2.26	79.13	0.02	0.77
千葉	157,291	3,091	2,565	76	75	1,615	109	285	1.97	82.98	0.05	2.46
新潟	224,950	6,721	6,203	131	284	3,013	527	82	2.99	92.29	0.06	1.95
山梨	23,602	643	475	15	9	451	168	0	2.72	73.87	0.06	2.33
長野	61,828	2,690	2,175	24	78	966	515	80	4.35	80.86	0.04	0.89
富山	1,572	1	1	1	0	0	0	0	0.06	100.00	0.06	100.00
石川	26,707	425	355	12	2	143	70	-	1.59	83.53	0.04	2.82
福井	53,036	2,612	1,998	38	-	1,046	614	-	4.92	76.49	0.07	1.45
愛知	27,423	704	497	12	5	290	0	207	2.57	70.60	0.04	1.70
三重	35,252	310	230	15	-	125	-	80	0.88	74.19	0.04	4.84
滋賀	10,855	306	-	-	-	-	-	306	2.82	-	-	-
京都	50,578	1,246	-	-	-	-	-	-	2.46	-	-	-
兵庫	196,008	2,440	1,685	55	24	1,060	0	755	1.24	69.06	0.03	2.25
奈良	2,249	23	-	-	-	-	-	15	1.02	-	-	-
和歌山	61,236	816	422	0	7	194	8	394	1.33	51.72	0.00	0.00
鳥取	30,644	1,548	1,069	18	43	573	0	479	5.05	69.06	0.06	1.16
島根	41,269	1,321	1,089	14	73	523	232	0	3.20	82.44	0.03	1.06
岡山	125,341	2,588	1,848	43	71	906	0	740	2.06	71.41	0.03	1.66
広島	23,307	1,096	953	5	19	373	147	0	4.70	86.95	0.02	0.46
山口	33,811	1,347	351	15	0	231	0	996	3.98	26.06	0.04	1.11
徳島	38,246	1,076	887	39	34	530	189	284	2.81	82.43	0.10	3.62
香川	79,212	1,245	1,138	77	24	638	83	24	1.57	91.41	0.10	6.18
愛媛	55,007	1,094	977	26	52	644	0	117	1.99	89.31	0.05	2.38
高知	112,307	1,642	1,111	39	52	573	0	231	1.46	67.66	0.03	2.38
福岡	46,598	2,004	1,773	31	12	1,089	1	230	4.30	88.47	0.07	1.55
佐賀	30,560	469	421	14	31	241	48	0	1.53	89.77	0.05	2.99
長崎	45,102	843	741	31	21	488	0	102	1.87	87.90	0.07	3.68
熊本	77,254	421	364	27	2	220	12	45	0.54	86.46	0.03	6.41
大分	27,938	583	486	21	8	324	0	98	2.09	83.36	0.08	3.60
宮崎	38,016	31	27	11	3	8	4	2	0.08	87.10	0.03	35.48
鹿児島	157,150	1,958	1,800	94	66	963	49	109	1.25	91.93	0.06	4.80
沖縄	100,945	601	458	21	22	291	142	1	0.60	76.21	0.02	3.49
合計	3,012,431	64,518	51,436	1,442	1,312	28,283	5,291	7,365	2.14	81.72	0.05	2.29

精検受診率、がん発見率、陽性反応の中度は滋賀・京都・奈良を除いて計算

# 2012年度 がん検診の実施状況から ◆乳がん

支部	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検 受診者数 (C)	精密検査結果 (件)			未受診	未把握	各指標 (率)			
				がん (D)	がん疑い	がん以外 の疾患			要精検率 B/A×100	精検受診率 C/B×100	がん発見率 D/A×100	陽性反応 的中度 D/B×100
北海道	70,009	3,384	3,322	317	0	3,005	62	0	4.83	98.17	0.45	9.37
青森	25,213	2,044	1,854	62	1	1,009	0	178	8.11	90.70	0.25	3.03
岩手	33,542	827	790	69	0	508	37	0	2.47	95.53	0.21	8.34
宮城	51,662	1,492	1,434	103	0	924	16	42	2.89	96.11	0.20	6.90
秋田	14,848	1,309	1,165	38	1	1,126	147	0	8.82	89.00	0.26	2.90
山形	36,403	2,080	1,824	66	17	767	256	0	5.71	87.69	0.18	3.17
福島	18,946	707	609	37	3	250	-	521	3.73	86.14	0.20	5.23
茨城	57,744	2,732	2,540	104	15	1,499	192	0	4.73	92.97	0.18	3.81
栃木	46,445	3,150	2,669	85	54	1,635	481	12	6.78	84.73	0.18	2.70
群馬	23,521	1,058	1,034	65	4	579	0	24	4.50	97.73	0.28	6.14
埼玉	33,361	2,813	2,445	56	42	1,085	360	1,266	8.43	86.92	0.17	1.99
千葉	166,457	7,772	7,166	267	27	4,498	151	455	4.67	92.20	0.16	3.44
新潟	53,253	3,896	3,609	131	24	2,010	287	30	7.32	92.63	0.25	3.36
山梨	8,709	372	314	16	2	296	60	0	4.27	84.41	0.18	4.30
長野	37,566	2,512	2,187	67	0	2,010	0	325	6.69	87.06	0.18	2.67
富山	35,454	2,376	2,200	72	0	935	176	0	6.70	92.59	0.20	3.03
石川	21,149	1,862	1,667	55	0	657	195	-	8.80	89.53	0.26	2.95
福井	19,096	1,986	1,787	92	-	893	199	-	10.40	89.98	0.48	4.63
愛知	8,929	918	825	19	0	806	93	0	10.28	89.87	0.21	2.07
三重	31,100	1,854	1,651	54	-	661	-	203	5.96	89.05	0.17	2.91
滋賀	8,274	806	-	-	-	-	-	806	9.74	-	-	-
京都	38,719	2,159	-	-	-	-	-	-	5.58	-	-	-
兵庫	14,358	820	722	41	6	391	0	98	5.71	88.05	0.29	5.00
奈良	1,745	64	50	3	-	35	-	14	3.67	78.13	0.17	4.69
和歌山	9,689	651	575	20	1	212	0	76	6.72	88.33	0.21	3.07
鳥取	10,453	671	574	26	0	230	0	97	6.42	85.54	0.25	3.87
島根	9,676	634	603	26	8	287	31	0	6.55	95.11	0.27	4.10
岡山	18,860	701	441	13	0	281	0	260	3.72	62.91	0.07	1.85
広島	15,635	890	813	35	6	314	82	0	5.69	91.35	0.22	3.93
山口	8,432	952	211	8	0	111	0	741	11.29	22.16	0.09	0.84
徳島	8,625	640	566	38	0	388	74	140	7.42	88.44	0.44	5.94
香川	10,829	906	790	49	1	348	23	93	8.37	87.20	0.45	5.41
愛媛	27,153	1,069	1,016	78	15	502	0	53	3.94	95.04	0.29	7.30
高知	22,639	1,054	946	60	3	458	0	108	4.66	89.75	0.27	5.69
福岡	54,879	4,376	4,001	166	26	2,248	0	375	7.97	91.43	0.30	3.79
佐賀	15,827	1,012	910	33	17	442	0	2	6.39	89.92	0.21	3.26
長崎	18,820	1,286	1,167	38	22	617	0	119	6.83	90.75	0.20	2.95
熊本	30,651	1,398	1,201	58	1	734	18	176	4.56	85.91	0.19	4.15
大分	15,160	1,175	1,106	35	3	428	0	69	7.75	94.13	0.23	2.98
宮崎	5,628	555	500	21	2	302	55	12	9.86	90.09	0.37	3.78
鹿児島	50,340	2,208	2,120	95	10	1,137	25	63	4.39	96.01	0.19	4.30
沖縄	12,931	1,070	899	34	1	592	170	3	8.27	84.02	0.26	3.18
合計	1,202,730	70,241	60,303	2,652	312	35,210	3,190	6,361	5.84	89.64	0.23	3.94

精検受診率、がん発見率、陽性反応的中度は滋賀と京都を除いて計算



## 日本フットサルリーグが全面協力

# 久光重貴選手(湘南ベルマーレ)がフットサル大使に

—日本対がん協会のフットサルリボン活動—

4月21日、東京・お茶の水の日本サッカー協会で、6月のシーズンインを前に日本フットサルリーグ(Fリーグ)の記者会見が行われた。会場内満員の記者を前に試合日程の発表や大会名称の説明に続き、Fリーグが日本対がん協会のフットサルリボン活動に全面協力することが正式に発表された。

会見の壇上にはFリーグCOOの松崎康弘氏、同COO補佐の北澤豪氏、デウソン神戸の鈴木拓也選手、湘南ベルマーレの久光重貴選手らが並んだ。鈴木、久光両選手は自らががんに罹ったこと、周りの皆に救われてこの場にいること、今後、小児がんの子どもたちを支援したいこと、などを口々に語った。

取材するのはスポーツ部を中心とする記者たちだが、「がん」に対する関心は深く、両選手への質問が相次ぎ、朝日、読売をはじめ22日付の各紙で一斉に報道された。

Fリーグの試合は6月27日の代々木セントラル(国立代々木競技場第一体育館)からスタートする。今後、各ホームゲーム、セントラル会場での募金活動、Fリーグ選手によるがんの啓発、小児がん患者支援のイベントや慰問活動などを通じて日本対がん協会に協力していくことになる。

リーグのチーム数は昨季の10から仙台、すみだが加わって12に増えた。3



記者会見の壇上に並び、FリーグCOO松崎康弘氏(右から2人目)、同COO補佐北澤豪氏(左から3人目)、森永製菓守田稔氏(右から3人目)、デウソン神戸鈴木拓也選手(左から2人目)、湘南ベルマーレ久光重貴選手(右端)と塩見・日本対がん協会常務理事(左端)

回戦総当たりで来年2月15日までリーグ戦を開催し、上位5チームが同日から3月1日までのプレーオフで優勝を争う。

お近くの試合会場にぜひ足を運んでフットサルを楽しむとともに、がん啓発に力を貸してほしい。

### フットサル大使に 就任した久光重貴選手

4月1日、日本対がん協会の「フットサル大使」に湘南ベルマーレの久光選手(32)が就任した。

久光さんはすでに昨秋から日本対がん協会が実施するフットサルリボン活動に協力している。各試合会場での出展の際には協会のブースに立ち、募金を呼びかける、メディア出演の際にはこの活動や基金について紹介する、寄付をしてもらうように企業に依頼するなど活発に動いている。

こうした活動の上に、小児病棟の慰問も始まった。2月には神奈川県内の病院、4月には岩手、宮城県内の病院で日本対がん協会

スタッフとともに小児病棟を訪れている。

子どもたちとともにボールを使ったミニゲームを楽しみ、各病室を訪れてひとりひとりに話しかけプレゼントを渡す。日々、不安や辛い検査におびえる子どもたちの顔にも、笑顔が戻り活発な仕草が現れる。希望を持っていこうと締めくくる。

久光さん自身も闘病中で、昨年5月、チームの検診で肺腺がんが見つかった。日本対がん協会との出会いはラリー・フォー・ライフ。「何事もあきらめない」という強い思いで参加し、東京・上野公園、横浜・山下公園で他の患者や支援者とともに歩いて、がん征圧を呼びかけていた。

実は、久光さんには同じくがんと闘う先輩選手がいる。今回も小児病棟訪問

に同行しているデウソン神戸の鈴木選手(35)だ。鈴木さんは12年12月に上咽頭がんに罹っていることを公表し闘病生活に入った。その後半年にわたる抗がん剤治療を経て、13年9月には見事に復帰を果たした。

2人はこうした出会いを通じて13年12月、日本対がん協会のフットサルリボンアドバイザーに揃って就任した。

4月、久光さんは湘南ベルマーレのグラウンドワーカーという仕事から退き、選手を続けながら日本対がん協会のフットサルリボン活動に全面的に協力していくことを約束した。日本対がん協会もそれを受け、今回のフットサル大使の就任となったものだ。

真摯で熱い性格にファンも多く、ファンの中からもこのフットサルリボン活動にボランティアなどで協力してくれる人も出始めた。フットサル大使を中心にこの輪が大きく広がっていくことが期待されている。



子供たちとミニゲームを楽しむ久光選手